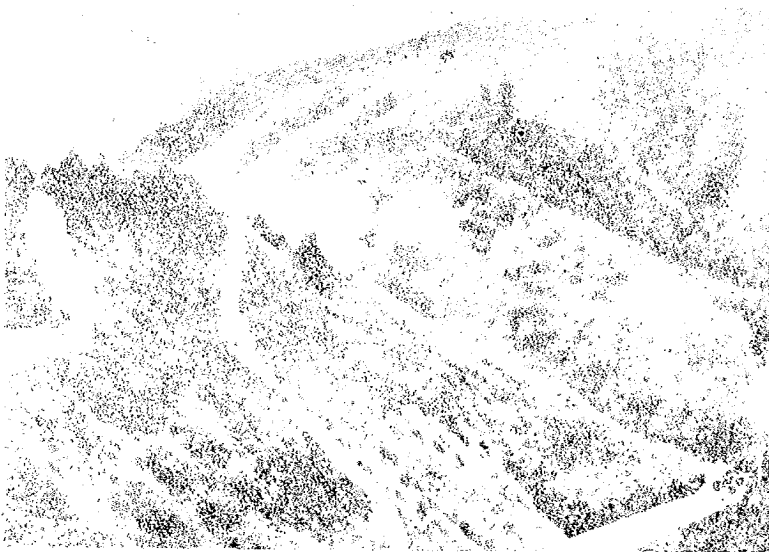


究

研

本邦道路之變遷

治龜田和將少軍陸 部本謀參
長部三第 事理



本邦道路ノ變遷

理事 陸軍少將 和田 龜 治

第一 上古時代

上古ニ於ケル本邦ノ道路ハ其狀況文獻ノ徵スヘキモノ無ク之ヲ詳ニスルヲ得ス、然レトモ人民ノ交通アレハ半自然的道路ノ起ルハ必然ノ理ナリ、神武天皇東征ノ時、戊午ノ歲紀元前三年四月王師ノ河内ヨリ大和ニ前進スルノ狀ヲ日本書記ニ寫シテ曰ク「皇師勦兵、步趣龍田、而其路狹嶮、人不得並行」ト以テ二列行進ヲ許ササル細路ノ存在セシヲ知ルヘシ、又三國志ニ我俗ヲ記シテ「下戸與大人、相逢道路、逡巡八里草」トアリ是レ亦道路ノ存セシ一證ト爲スヘキカ。

景行天皇、日本武尊、仲哀天皇ノ親征ノ如キ相當ノ兵力蓋シ數百人乃至數千人ヲ遠隔ノ地ニ行進セシメシ如キハ不完全ナカラ道路ヲ有セシヲ知ルニ足ル。

應神天皇ノ朝、入貢セル蝦夷人ニ課シテ厩坂ノ道地點ヲ作リ、未詳、仁德天皇ノ時、韓人ヲ役シテ橋梁ヲ猪甘ノ津樞樞ニ架シ、又大道ヲ京師波難南門ヨリ河内丹比邑クサヒニ通シタリ、此時代ニハ盛ンニ三韓ノ文物ヲ輸入シ土木ノ技術モ亦進歩シタルハ斯ク道路橋梁等ノ工事、史上ニ現ハルルニ至レルナ

三韓ノ文物輸入

リ。

當時、國ニ國造、縣ニ縣主ヲ置キ以テ全國ヲ分治ス。國造ノ數凡ソ百三十アリ、而シテ東海、東山、北陸(又越路)、西海、丹波等ノ地方名モ行ハレ。後ノ七道ノ起因ヲ爲セリ、蓋シ之ニ一貫セル道路ノ通スルモノアリシナリ。

第二 王朝時代

大寶令

大化ノ新政紀元千三百六十二年ニ至リテ律令大成ス。大寶令即チ是レナリ、是ニ於テ全國ヲ五十八國三島ニ分チテ地方ヲ統

道路ノ修繕

驛

平安京ノ大路

治ス、畿内ノ外ニ凡ソ七道東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海アリ。驛傳ヲ置キテ官用ノ旅行ニ供セリ。其道路ニ關シテハ營繕令ニ「凡ソ津橋道路ハ年毎ニ九月ノ半ヨリ起リテ當界修理シ十月ニ訖ラシメヨ。其要路陷壞シテ水ヲ停メ交カニ行旅ヲ廢セハ時月ニ拘ラス量リテ人夫ヲ差シ修理セヨ。當司當國ノ司能ク辨スルニ非ルモノハ申請セヨ。」トアリテ道路ノ修繕ニ關スル件ヲ規定シ又公式令ニテ「凡ソ驛ノ傳馬ヲ給ハルハ皆鈴傳符ノ數ニ依レ、トアリ驛鈴ヲ以テ驛馬及傳馬ヲ發スルコトヲ規定シ喪葬令ニ於テハ「凡ソ皇都及道路ノ側近ニ並ニ葬埋スルコトヲ得ス。」ト規定シ又厩牧令ニテ三十里毎ニ一驛ヲ置クコトヲ制定セラレタルカ其驛傳ヲ通スヘキ道路及驛名ヲ傳ヘス。

桓武天皇ノ延暦十二年紀元千四百五十二年平安城ヲ建テ南北ニ通スル大路ニヨリテ左右ノ京ニ分ツ朱雀大路ト曰フ幅二十八丈アリ東西ニ九條ノ大路ヲ設ク市街道路ノ大規模ナリシヲ想見スヘシ。

本邦道路ノ變遷

醍醐天皇ノ延長五年紀元千五百八十七年延喜式成リテ諸制度益完備ス其驛傳ハ兵部省ノ管スル所ニ係ル驛ハ「ちまや」ト訓シ陸驛及水驛アリ今延喜式ニ傳フル所ニ依リテ驛名ヲ左ニ舉クレハ

畿内

山城 山崎 河内 楠葉、槻木、津積、和泉 日部、呼吹、攝津 草野、須磨、葦屋、

東海道

伊勢 鈴鹿、河曲、朝明、板橋、市村、飯高、度會、志摩、鳴渚、磯部、尾張 馬津、新溝、兩村、參河 鳥取、山網、渡津、遠江 猪鼻、栗原、○摩、横尾、初倉、駿河 小川、横田、息津、蒲原、長倉、横走、甲斐 水市、河口、加吉、相模 坂本、小總、箕輪、濱田、武藏 店屋、小高、大井、豐島、安房 白濱、川上、上總 大前、藤瀨、島穴、天羽、下總 井上、浮島、河曲、菫津、於賦、常陸 榛谷、安侯、曾禰、河内、田後、小田、雄薩、

東山道

近江 勢多、岡田、甲賀、篠原、清水、鳥籠、横川、穴太、和爾、三尾、鞆結、美濃 不破、大野、方縣、各務、可兒、土岐、大井、坂本、武義、加茂、飛驒 下留、上留、石浦、信濃 阿知、育良、賢維、富田、深澤、覺志、錦織、浦野、豆理 清水、長倉、麻績、豆理、步胡、沼邊、上野 坂本、野後、群馬、佐位、新田、下野 足利、三鴨、田部、衣川、新田、磐土、黒川、陸奥 雄野、松田、磐瀨、葦屋、安達、湯日、峯越、伊達、篤倍、柴田、小野、名取、玉前、栖屋、照川、色麻、玉造、栗原、磐井、白鳥、鷹澤、磐基、長有、高野、出羽 最上、村山、軒後、遊畷、佐藝、遊佐、蚶方、由理、白谷、飽海、秋田、

北陸道

若狭 鬮美、濃飯、越前 松原、鹿葺、濟羅、丹生、朝津、阿味、足羽、三尾、加賀 朝倉、瀧津、安宅、比樂、田上、深見、横山、能登 礪才、越前 坂本、川合、巨理、白城、磐瀬、土橋、春勢、佐味、越後 滄海、瀧石、名立、水門、佐味、三島、多穴、大家、伊神、渡戸、佐渡 松崎、三川、雜犬、

山陰道

丹波 大枝、野口、小野、長柄、星角、佐治、日出、前浪、丹後 勾金、但馬 粟鹿、郡々、養番、山前、面沼、射添、春野、因播 唐崎、佐尉、敷見、柏尾、伯耆 笏賀、松原、清水、和奈、相具、出雲 野城、黒田、宍道、狹締、多伎、千酌、石見 波瀾、託農、樟道、江東、江西、伊甘

山陽道

播磨 明石、賀古、草上、大市、布勢、高田、野磨、越部、中川、備前 坂長、珂磨、高月、津高、備中 津峴、河邊、小田、後月、備後 安那、品治、耆度、安藝 眞良、梨葉、都宇、宇鹿、附〇、木綿、大山、荒山、安藝、伴部、大町、種篋、瀧喉、遠管、周防 石國、野口、周防、生屋、平野、勝間、八千、賀賀、長門 阿津、厚狹、植生、宅賀、臨門、阿津、鹿野、意福、用宇、三隅、參美、壇田、阿武、宅佐、小川

南海道

紀伊 萩原、賀太、淡路 由良、大野、福良、阿波 石濃、郡領、讃岐 刈田、松本、三谿、河内、龜井、柞田、伊豫 大岡、山背、近井、新井、周敷、越智、土佐 頭驒、吾椅、舟川

西海道

筑前 彌見、夜久、島門、津日、ムシロウゲヒナモリ 席打、夷守、美野、久爾、佐尉、深江、比菩、額田、石瀨、長丘、把伎、ハギ 廣瀨、隈崎、伏見、網別、筑後、御井、葛野、狩道、豐前 社崎、到津、イタウツ 田河、多米、刈田、築城、下毛、宇佐、安覆、豐後 小野、荒田、石井、直入、三重、丹生、高坂、長湯、由布、肥前 基肆、キイ 切山、佐嘉、高來、磐氷、大村、賀周、アワカ 蓬鹿、トモ 登望、トモ 杵島、トモ 額田、トモ 新分、船越、山田、野鳥、肥後 大水、江田、坂本、三敷、ユカヒ 較高、高原、ユカヒ 靈養、球磨、長崎、豐向、高屋、片野、ク 朽網、ク 佐職、水俣、仁主、大隅 蒲生、大水、薩摩 市來、英禰、ノゾ 納津、田後、シ 磯野、高來、日向、長井、川邊、刈田、美禰 去飛、コヒ 兒湯、當麻、石田、ク 救麻、ク 救武、アヤ 亞棚、野後、夷守、マサキ 眞祈、水俣、島津、壹岐 靈通

以上ノ驛ノ配置ヲ見テ道路ノ狀態ヲ知ルヘク當時ニ於ケル諸國ノ地圖ノ模本ハ、京都下加茂社ニ傳ヘ以テ當時ノ山川驛路ヲ釋スヘシト云フ。

第二 鎌倉時代ヨリ室町時代

王權衰ヘテ諸制度廢レ世ハ武家執政ノ時代ト爲レリ、建久元年紀元千八百五十年源頼朝六十六國ノ總追捕使ニ補シ、同參年征夷大將軍ニ任スルヤ幕府ヲ鎌倉ニ開キタリ。

兵馬ノ實權鎌倉ニ移ルヤ道路網ノ構設モ亦隨テ變革ヲ來シ鎌倉ヲ中心トシテ主要ナル道路ヲ放光狀ニ設ケ京師ト共ニ二個ノ中心ヲ作ルニ至レリ、即チ鎌倉ヨリ武藏ノ國府ヲ經テ上野地方ニ至ルモノ鎌倉ヨリ武藏金澤江戶ヲ經テ兩總、常陸地方ニ通スルモノ等はレナリ、其局部ニ鎌倉街道ノ名稱ヲ存スルモノ諸國ニ散在ス、是レ鎌倉幕府ヨリ南北朝時代ヲ經テ室町時代ニ至レル道路

ノ遺跡ト爲ス

第四 安土桃山時代ヨリ江戸時代

信長ノ
道路修
築
大里
小里

戰國ノ末期ニ於ケル大道路ハ略ホ今ノ國道ノ線ニ一致シ局部ニ於テ小變革アリシニ過キサルモノ、如シ、天正元年紀元二千二百三十三年織田信長ノ足利氏ニ代ルヤ使ヲ四方ニ出シテ道路ヲ修メ幅二間二尺ヲ度トス乃チ里程ヲ檢定シ行樹ナメキヲ植エ關稅ヲ除ケリ、古制ニ大里、小里アリ小里ハ六町、大里ハ其自乘數ノ三十六町ナリ、此時代ニハ專ラ大里ヲ用ヒシカ如シ、豊臣秀吉ノ之ニ代ル兵要上ノ必要ヨリ逐次道路ヲ修理シテ大兵ヲ派遣シ毎ニ敵國ヲ壓倒セリ、其紀伊、越中、九州、小田原、奥羽ノ諸役ノ如キ各十萬以上ノ大軍ヲ動カシ文祿元年紀元二千二百五十二年朝鮮ニ出兵セシ時ハ實ニ三十萬ノ大軍ヲ肥前名護屋ニ集中セリ、以テ當時道路網ノ完成シ在リテ其路幅ガ大軍ヲ行進セシムルニ適シタルヲ想見シ得ヘシ。

天正十八年七月秀吉令シテ小田原、會津間ノ道路ヲ修築シ、其幅員ヲ三間ト定メタリ。

慶長五年紀元二千二百一十年徳川家康關原ノ一戰ニ大捷ヲ博シ越エテ二年征夷大將軍ニ拜セラルルヤ幕府

ヲ江戸ニ開キテ天下ニ號令シ文武ノ實權全ク之ニ移リ封建ノ制度、諸侯參覲交代等ノ儀全ク整ヒ爾後二百六十餘年太平ノ治ヲ致セリ城市ノ發達及道路ノ諸制度等ノ具備セルモ亦此時代ニ在リ乃チ官道ヲ修メ里程ヲ正シ宿場即チ驛ヲ置キ諸大道ノ行樹ヲ補植シ一里塚ノ制ヲ定メ日本橋ヲ以テ全國里程ノ元標ト爲ス當時ハ江戸及京都ヲ中心トシテ道路網ヲ放出セルコト鎌倉時代ニ相似タリ、本邦道路ノ變遷

五街道

奉道行中

定助郷

加助郷

東海道

中山道

奥州街道

東海道、中山道、奥州街道、日光街道、甲州街道ヲ五街道ト稱シ其他北國路、中國路、長崎路、伊勢路、水戸街道等アリ。又驛路ノ事ハ奈良、屋、市、右衛門、樽屋、三四郎ノ二人ヲシテ之ヲ司ラシメ公用ノ傳馬、駄馬ハ皆此二人ノ發スル傳符ヲ以テ出サシメタリ、尋テ寛永十二年紀元二千二百九十五年ニ至リ武家諸法度ヲ定メテ諸國ノ道路橋梁ヲ修メ驛馬舟楫ヲ備ヘシメ萬治二年紀元二千三百零八年始メテ道中奉行ヲ置キテ宿驛ノ事ヲ管セシメ大目付、勘定奉行ヲシテ之ヲ兼ネシメ後元祿二年紀元二千三百四十六年中、五街道宿驛ノ近傍一、二里ノ諸村ニ徭役ヲ課セシメ之ヲ定助郷ト名ツケ又五里以上十里以内ノ附近諸村スルモノヲ加助郷ト名ツケ傳馬役夫ヲ徵發セシメタリ。

上述ノ諸街道ニ就テ其狀況ヲ左ニ掲ケ以テ參考ニ資セン（附圖參照）

一、東海道ハ京都、江戸ノ二大都ヲ連絡スル第一等ノ官路ニシテ江戸日本橋ヨリ起リ品川ヲ經テ

小田原、沼津、府中靜岡掛川、濱松、吉田豐岡岡崎ノ諸城市ヲ通過シ宮田熱田ヨリ海路桑名ニ出テ、龜

山ヨリ水口ヲ經テ草津ニテ東山道ト合シ膳所、大津ヲ經テ京都ニ入ル其距離百二十四里八町ニ

シテ其間ニ五十三宿五十三次ヲ置ク此街道ハ西國大名參觀ノ爲蟬集スル所ニシテ道幅廣ク三間ヨ

リ五間ニ至ル宮、桑名間ノ複道ニ佐屋廻リ四宿岩塚、萬場、神守、佐屋アリ海路杜塞セシ時之ニ由ル。

二、中山道ハ一ニ木曾路ト云フ日本橋ヨリ板橋ヲ經テ高崎、安中ノ諸城市、下諏訪、鹽尻ノ諸驛ヲ通過シ木曾峽谷ヲ經テ加納岐阜ノ城下ニ出テ關原ヨリ柏原、鳥居本等ノ諸驛ヲ通過シ草津ニ

テ東海道ト合シ京都ニ入ル行程百三十七里十一町ニシテ六十九宿ヲ置ク。

三、奥州街道ハ日本橋ヨリ千住ニ出テ越ケ谷粕壁等ノ諸宿ヲ經テ古河、宇都宮、喜連川、太田原

白河、二本松、福島、白石ノ諸城市ヲ通過シ岩沼ヲ經テ仙臺ニ至ル其行程九十一里、仙臺ヨリ更ニ北行シテ一ノ關、盛岡ノ城下ヲ過キ野邊地ヨリ青森ニ達ス日本橋ヨリ凡ソ六十九宿。

四、日光街道ハ奥州街道宇都宮宿ヨリ分岐シ今市ヲ經テ日光ニ達スルモノナリ外ニ日光例幣使街道アリ即チ勅使參向ノ街道ヲ謂ヘルモノニテ中山道高崎ヨリ前橋、伊勢崎、太田、栃木、鹿沼ヲ經テ日光ニ至ルモノトス。

五、甲州街道ハ日本橋ヨリ内藤新宿、八王子ヲ經テ小佛、笹子兩峠ノ險ヲ通過シ甲府ニ至ルモノニシテ三十四宿アリ。

甲府ヨリ藪崎、上諏訪ヲ經テ下諏訪ニ至リ中山道ニ合ス。以上ハ江戸ヲ中心トセル五街道ニシテ其外尙多數ノ官路ヲ存ス即チ左ノ如シ。

北國路ハ東海道鳥居本宿ヨリ分岐シ長濱柳ヶ瀬ヨリ北陸道ニ入り鯖江、福井、大聖寺、金澤ノ諸城市ヲ過キ越中ニ入り富山ノ南方ヲ通過シテ越後ノ糸魚川、高田、椎谷ノ城下ヲ經、出雲崎ヨリ新潟ニ出テ海岸ニ沿フテ鼠ヶ關ヨリ出羽ニ入り酒田ヨリ本庄城市ヲ經テ久保田秋田ヲ過キ能代ヨリ海岸ニ沿ヒ三厩ヨリ青森ニ至ル。

北國路ト東山道トヲ連絡スルモノニ東山道追分香掛、小田井ノ中間ヨリ小諸、上田、善光寺長野ヲ經テ高田ニ至ルモノアリ。

伊勢路ハ一ニ參宮街道ト稱ス東海道追分四日市、石ヨリ分岐シ神戸、津ノ兩城市ヲ過キ内、外兩宮ニ至ルモノトス。

西國路

又巡禮街道アリ即チ山田ノ北方ヨリ西ニ分レ田丸ヲ經テ新宮、本宮、田邊等紀伊ノ海岸ニ沿フテ和歌山城下ニ入り岸和田、境ヲ經テ大阪ニ至ル。

西國路ハ又中國街道ト稱ス京都ヨリ山崎、池田、伊丹ノ諸宿ヲ過キ西ノ宮、兵庫ノ諸港ヨリ明石、姫路、岡山、三原、廣島、徳山、府中門長ノ諸城市ヲ過キ下ノ關ニ至ルモノトス此街道ハ東海道ニ比シテ發達セサリシハ海路ノ便利ナルニ因リ大部ハ之ニ由リシカ爲ナリ。

長崎路ハ小倉ヨリ起リ黒崎、原田、田代ノ諸驛ヲ過キ佐賀、大村ノ二城市ヲ過キ長崎ニ至ルモノトス。

又田代ヨリ分岐シ久留米、熊本ノ城下ヲ過キ佐敷ヨリ三太郎峠ノ險ヲ越エ鹿兒島ニ至ルモノヲ鹿兒島路ト稱ス。

水戸街道ハ日本橋ニ起リ松戸、取手ノ諸宿牛久、土浦、府中石、宍戸、笠間ノ諸城市ヲ過キ水戸ニ至ルモノニシテ水戸ヨリ海岸路ヲ經テ奥州ニ入り湯長谷ユナガヤ、岩城平、中村ノ諸城市ヲ過キ奥州街道岩沼宿ニ合スルモノヲ奥州濱街道ト稱ス。





此外尙ホ數條ノ官路アリシモ記録缺ケテ傳ハラス要スルニ明治維新後ノ諸道路ハ其基礎ヲ徳川時代ニ置キタルモノニテ其局部ニ就キ修治シタルモノ多シ鐵道ノ發達スルニ從ヒ江戶時代ノ道路ハ漸次其特質ヲ變セントスルノ勢アリ。(未定稿)

水戸街

長崎路

江戸時代下現在二小時於主ル交通比較要圖

例 凡

	江戸時代ニ於ケル道路
	現時ニ於ケル國道
	現時ニ於ケル縣道
	現時ニ於ケル國有鐵道

